

【概況説明】

資金収支計算書

平成28年度の資金収入は、「学生生徒等納付金収入」から「前年度繰越支払資金」までの合計が54億5,589万円となりました。

一方これに対する資金支出の総額は、「人件費支出」から「資金支出調整勘定」までの合計が32億9,160万円で、収入総額より差し引いた21億6,429万円が翌年度繰越支払資金となり、前年度末に比べ1,461万円支払資金が減少しました。

本年度は大学のネットワークシステムの更新を中心とした施設設備関係の支出増が影響し、このような収支結果となりました。

活動区分資金収支計算書

資金収支計算書をもとに、それぞれの活動区分ごとの収支を見てみると、教育活動による資金収支は1億2,487万円のプラス、施設整備等活動による資金収支は1億4,541万円のマイナス、教育活動と施設整備等活動の総額での資金収支は2,053万円のマイナスとなりました。また、その他の活動による資金収支は592万円のプラスとなり、収支差額の総額としては上記の資金収支計算書の通り、支払資金は1,461万円の減額となっています。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書では、資金収支計算書での人件費に退職給与引当金が、教育研究経費及び管理経費に減価償却額等が加算されることに加え、人件費比率が前年度よりも上昇したこともあって、教育活動収支では2億5,470万円のマイナスとなりました。一方、教育活動外収支では3,392万円のプラス、教育活動と教育活動外収支を合わせた経常収支では2億2,077万円のマイナスとなりました。また、特別収支では704万円のプラスとなり、総合して基本金組入前の当年度収支差額は、2億1,373万円のマイナスとなりました。

今年度の基本金組入は、大学において比較的高額な備品の除却があり、一方、大学ネットワークシステムの更新による高額の備品の取得などもあって基本金組入額としては8,063万円を計上する形となりました。その結果、当年度収支差額がマイナスの2億9,437万円となり、これに前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は、16億3,839万円の支出超過となりました。

貸借対照表

上記の資金収支及び事業活動収支の結果、平成28年度末における本学園の財産状況を示す貸借対照表では、資産の部の合計額は前年度に比べ1億8,722万円減少し、165億3,609万円となりました。これらは主に建物・施設設備など有形固定資産の除却や減価償却等による減少分が反映されています。

これに対して負債の部の合計額は、前年度に比べ2,650万円増加し9億8,288万円でした。この負債額のうち借入金に計上されているものは、高等学校において例年適用を受けている愛知県私学振興事業財団の授業料軽減貸付金の償還に要する財源として愛知県から全額補填されるものであり、実質的な資金の借入は行われていません。本年度は年度をまたいで支払う未払金が多く計上され、負債額が若干増加する形となりました。

純資産の部のうち、基本金については上記事業活動計算書の通り、第1号基本金に8,063万円を組入れ142億2,933万円となり、第2号、第4号基本金については前年度と同額となっています。また、翌年度繰越収支差額は前年度に比べ2億9,437万円増加し、16億3,839万円の支出超過となり純資産の部合計額は前年度から2億1,373万円減の155億5,321万円となりました。

財務比率表

上記の各計算書から算出した財務比率を分析してみると、負債比率が極めて低く、運用資産余裕比率や純資産構成比率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態が維持されています。

しかしながら、本年度は施設設備関係を中心に支出が増加し、また大学の人件費も増加傾向にあり単年度の収支では資金収支、事業活動収支ともにマイナスとなったため、今後も中期計画に基づいて学園全体で学生募集を順調に進めるとともに、より一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、学園の持続性を維持するため、次年度以降の収支比率を悪化させることなく、好転していけるよう努力していく必要があります。